

歌が思い出をよぶ

ふどりのそよ風 いい日だね

の歌の通り三月の春の白になつた

くうり冬がすぎたのは 何もおきなくて

うれしい 返路のすみずみに「おおい又あつた

いを見わけてさ じやかんでゆうエリ見たい

言懐をよんで目下ううたかぬくの朝が

はもうやい

かきわの元ふどりの葉が見える

葉をどんくの国を弾輪をしていふ

ラジオから心ゆきあがるメロディが流れて来た

忘れやいでうかれやいで 別れゆくボクのまじ

に 春を夕やみで行つてしるた人を

思い出す

高坂生のころかう文通していた

東大生のボート部員だった結核で入院した

いたが 元氣を回復して会社をふこし 活やくした

おくとてまてんふ

五十年ほど前若くして行つてしるうた

大さめのソートンがボックスがある

中江イヤリニガ アロ 14 ボックスでいふ

